

哲学堂公園・旧野方配水塔周辺地区整備基本方針について

哲学堂公園・旧野方配水塔周辺地区整備基本方針を策定したので報告する。

記

1. 目的

哲学堂公園及び旧野方配水塔の歴史的・文化的価値を高め、両近代化遺産の有する風致と調和する良好な周辺環境の形成を図り、これらを核とする歴史・文化を活かした都市観光拠点の形成を図る。

2. 計画内容

(1) 哲学堂公園・旧野方配水塔周辺地区

哲学堂公園・旧野方配水塔の風致と調和し魅力を高める都市整備・まちづくり

(2) 区北部地域における都市観光拠点形成地区

中野駅から哲学堂公園・旧野方配水塔に至る動線を中心として、まち歩き回遊する都市観光客の誘致を図るための取り組み

3. 計画期間

平成 27 年度～平成 36 年度までの 10 年間

4. 整備基本方針

(1) 哲学堂公園・みずのとう公園

歴史的・文化的遺産としての保存・修復、歴史的・文化的価値の研磨

歴史的・文化的遺産を活かした特徴ある公園の再整備、体験学習施設の整備、スポーツ施設の改修

(2) 公園周辺の土地利用・建物、景観

利用者・住民の利便に供する商業施設の幹線道路沿道への誘致

哲学堂公園・旧野方配水塔と調和した景観の保全、形成

(3) 回遊ルートの策定

両公園や周辺の観光資源と駅を結ぶ回遊ルートの整備

(4) 魅力構築と情報発信

都市観光拠点としての魅力化、都市観光戦略の構築、積極的な情報発信

(5) 協働による整備推進

関係主体によるまちづくりの考え方の共有
協働による地区の魅力向上、おもてなしの取組

5. 「哲学堂公園・旧野方配水塔周辺地区整備基本方針」
別添資料のとおり

6. 今後のスケジュール
＜平成27年度＞
哲学堂公園周辺地区整備事業化計画策定
哲学堂公園四聖堂修復実施設計

1. 策定にあたって

(1) 目的

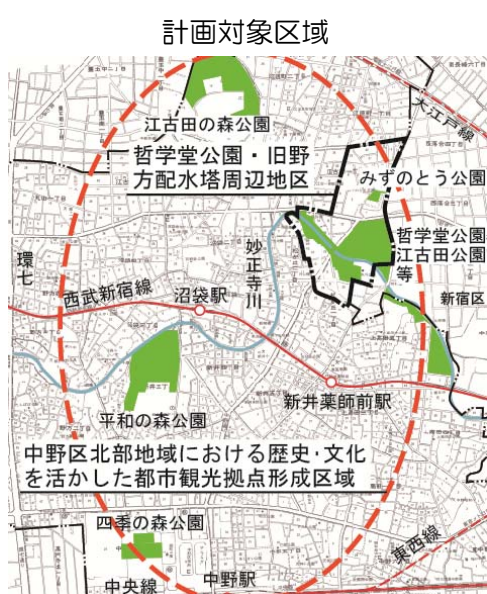
東京都の名勝の哲学堂公園と国の登録有形文化財の旧野方配水塔の歴史的・文化的価値を高め、両近代化遺産の有する風致と調和する良好な周辺環境の形成を図り、これらを核とする歴史・文化を活かした都市観光拠点の形成を図ることを目的とする。

(2) 計画対象区域

対象区域	検討事項
哲学堂公園・旧野方配水塔周辺地区	哲学堂公園・旧野方配水塔の風致と調和し魅力を高める都市整備・まちづくり
区北部地域における都市観光拠点形成区域	中野駅から哲学堂公園・旧野方配水塔に至る動線を中心としてまち歩き回遊する都市観光客の誘致を図るための取り組み

(3) 計画期間

平成27年度(2015年度)から平成36年度(2024年度)までの10年間。



2. 整備の目標

- 「中野区北部地域における都市観光拠点」としてのコンセプトを明確にしつつ、哲学堂公園・旧野方配水塔の有する「近代化遺産」としての歴史的・文化的価値を保存・継承しさらに一層磨き、それらと調和した風致、景観を周辺において形成し、まちの魅力を高める。
- 来訪者が中野駅等から哲学堂公園・旧野方配水塔や他の観光資源に向けて楽しく快適に回遊できるようにまち歩きルートやその周辺環境を整備する。
- 魅力を満喫できる体験の提供やイベントの企画に取り組むとともに、積極的に情報発信して、国内外から集客を図る。

3. 整備の基本方針

哲学堂公園・みずのとう公園	・区北部地域の都市観光拠点の核として保存、修復し、それらの価値を一層磨く。 ・歴史的・文化的価値をわかりやすく伝える工夫を講じる。 ・歴史的・文化的遺産を活かした特徴のある都市公園として再整備する。 ・哲学堂公園スポーツ施設の、野球場防球ネットの高さを高くする付け替えや老朽化に対応した再整備を行う。
公園周辺の土地利用・建物、景観	・良好な住宅地としての利用を維持しつつ、これと調和する、住民や来訪者の利便に供する商業施設等の立地を幹線道路沿道において図る。 ・哲学堂公園・旧野方配水塔の有する風致と調和した佇まい、景観を保全・形成する。
回遊ルート	・両公園や周辺の観光資源、駅と結ぶ道路を安全に歩行・散策できる通りに再整備する。
魅力構築と情報発信	・都市観光拠点としてのコンセプトや魅力化、外客来訪を含めた都市観光の集客拡大に向けた戦略を構築する。 ・より多くの人に哲学堂公園・旧野方配水塔の価値、魅力を知らせ訪れてもらうための、国内外に対する積極的な情報発信を推進する。
協働による整備推進	・地区のまちづくりの考え方を関係するすべての主体が共有する。 ・関係主体が協働して地区の魅力向上、来訪者のおもてなしに取り組む。

4. 哲学堂公園・みずのとう公園の保存・整備計画

(1) 哲学堂公園

- 1) 文化財の保存・改修・魅力化
 - ・哲学堂77場の古建築、構造物の保存・改修等により、歴史的・文化的価値を一層磨く。
 - ・四聖堂、宇宙館、絶対城を優先して修復し、髑髏庵、鬼神窟、六賢台、無尽蔵も順次修復を行う。

2) 歴史的・文化的価値の解説・情報提供

- ・哲学堂の歴史的・文化的価値と魅力をより広く周知するため、井上円了博士の経歴や、哲学のわが国への紹介など近代化に果たした業績等をわかりやすく見せる解説案内を整備する。
- ・ボランティアガイドの強化・人材育成を図るとともに、そのPR周知をより強力に展開する。

3) 体験学習施設の整備

- ・新設する体験学習施設は、哲学堂77場と調和したデザインとし、哲学堂に関する講演・学習会を開催したり、伝統技能・哲学修養の体験コース等の文化体験の機会を提供したりするとともに、井上円了博士の業績や哲学堂に関する解説ビデオ放映や充実した展示を行うことにより、哲学堂77場や円了哲学への理解増進、わが国の近代化の過程の一端を学べる文化交流の拠点としての機能を担う。

4) 広場・園路等の再整備

- ・時空岡は古建築物群と調和し、哲学の時空間を表した広場として再整備する。
- ・園路は、落ち着いた雰囲気、歴史的風致を壊さない形態で、バリアフリー化、再整備を行う。
- ・繁茂し過ぎている植栽は、適宜伐採、剪定等により再整備する。時空岡のアカマツや斜面地の落葉広葉樹林等、往時の明るい樹林景観に戻す。
- ・管理事務所棟の建替え、野球場防球ネットの付け替え、野球場・庭球場の照明設備の付け替え等を行う。

(2) みずのとう公園・旧野方配水塔

- ・貴重な近代土木遺産として、また、地域のシンボルとして保存・改修し、次代に継承する。
- ・周囲からのアイストップ、ランドマークとしてのシンボル性を高め、より魅力ある眺望とするために、ライトアップ設備を設置する。
- ・公園として機能の充実を図るため、南側に隣接する東京都水道局用地を活用した拡張、再整備を図る。
- ・遊具、ゲートボールコート、休憩施設、植栽を再整備する



5. 土地利用・建築物及び景観形成計画

(1) 土地利用計画

- ・今後共住宅利用を基本とし良好な土地利用、歴史的資源と調和のとれた落ち着いた住環境を維持する。
- ・新青梅街道、中野通りの沿道は、地域の日常生活、来訪者の利便に供する、周辺の良い住宅地と調和した飲食店や物販店、生活サービス施設、事業所サービス施設等が複合した土地利用を形成する。

(2) 建築物・景観整備計画

- ・地区の建物は、哲学堂公園・旧野方配水塔等の歴史的・文化的資源と調和し落ち着いた佇まいと景観を維持するように配慮した用途、外観とする。
- ・哲学堂公園や旧野方配水塔、蓮華寺、北野神社等の景観資源を活かし、それらの風致と調和した街並み、佇まい、景観の維持・形成を図る。
- ・哲学堂公園やみずのとう公園、江古田公園の樹木や、中野通り・新青梅街道の桜並木をはじめとした豊かな緑と調和した、落ち着きのある景観の形成を図る。
- ・ランドマークとして地域のシンボルとなっている旧野方配水塔の、中野通り南側からの眺望等を保全できるように周囲の建物の高さ・スカイライン等を配慮する。
- ・建築物の意匠形態は周辺の建築物や景観との調和を図り、色彩は低彩度を基調とした落ち着きのあるものとする。景観を阻害する要素の改善を図る。
- ・敷地内は道路沿いの緑化、壁面緑化、屋上緑化を行い、緑の創出に努める。

(1) まち歩き回遊ルート

- ・区北部地域における都市観光のアクセス拠点として中野駅を、中核都市観光資源として哲学堂公園・旧野方配水塔を位置づけ、それらを結ぶまち歩き回遊ルート＝「歴史・文化の回廊」を設定する。
- ・両公園及び周辺観光資源を結ぶ道路やそれらと鉄道駅を結ぶ道路について、歩道付き路線は歩行者空間の改善整備、桜並木等の街路樹の保全と必要に応じた植え替え等を行うとともに、歩車道未分離の道路の歩車共存道路化、減速運転を促すカラー舗装等の処理を行い、安全・快適かつ楽しくまち歩きすることができる経路を整備する。

（２）案内誘導サインの設置

- ・まち歩き回遊ルート上に、統一した魅力的デザインの来訪者を導き案内する案内誘導サインを設置する。
- ・案内誘導サインは主軸上の線状配置に加えて主軸から各施設へ導く分岐点に配置する。具体的には、まち歩きを開始する地点（鉄道駅前等）や、まち歩き回遊ルートの中間点や分岐点などに設置する。
- ・設置空間としては、ルート上の公共用地（道路、公園）や区有施設用地を基本とし、必要に応じて、東京都、鉄道事業者、神社仏閣等の協力を得て設置を図る。
- ・まち歩きを誘うために地図等を用いてその周辺の状況を示す「案内サイン」と、目的の場所へ誘導するため矢印等で方向を示す「誘導サイン」を基本として設置を考える。
- ・グローバル化に対応するため、多言語表記やピクトグラムを活用したデザインとする。



7. 都市観光資源研磨・情報発信計画

ハード整備と同時に、外客も含めて広域的に観光客の誘致を図るために都市観光拠点としての魅力を高め、さらに、その魅力を広域的に情報発信し誘客するソフト政策の取り組みを強力に展開していく。

(1) 都市観光資源としての魅力向上による集客力強化

- ・中野区北部における歴史・文化を活かした都市観光拠点として、全体が共鳴し合って魅力を発信する、これからの時代にふさわしい「コンセプト」を明確にし「観光資源の物語化」を図る。
- ・歴史・文化に「ふれる、見る、学ぶ」だけでなく、伝統技能の体験コース等の「体験する」、「食文化を楽しむ」、「エンターテインメントに興じる」など複合的な魅力を提供する。
- ・哲学堂をわかりやすく案内できる「哲学堂ボランティアガイド」やまち歩きを案内する「中野まち歩きボランティアガイド」の育成、活用を進める。
- ・地域の商店や住民、事業所が観光客に優しく接する「おもてなし活動」、「ホスピタリティ向上」を推進する。
- ・民間による哲学堂や旧野方配水塔関連のグッズ、観光商品の開発、販売の誘導を行う。
- ・北部地域における歴史・文化を生かした都市観光拠点の魅力を発揮できるような観光ルート、お勧めコース、回遊ルートの具体化を図る。

(2) 広域的な情報発信

- ・ 外客誘致を含めた集客のためのPR戦略を構築する。
- ・ より多くの人に哲学堂公園・旧野方配水塔の価値、魅力を知らせ訪れてもらうための、国内外に対する積極的な情報発信を展開する。
- ・ 哲学堂公園・旧野方配水塔等の魅力を知ってもらい、来訪・散策を誘うために、多言語によるPRパンフレット、まち歩きガイドマップを新たに作成し・配布する。

- ・中野区ホームページ・まるっと中野・FacebookによるPR、SNSを活用した世界への情報発信を展開する。
(多言語による情報発信)
- ・広域的に情報発信し集客するイベントを区内外で積極的に開催する。(MICEの誘致、なかのまちめぐり博覧会など既往のイベントに併せたPRの展開、両公園と歴史民俗資料館との共同イベントの企画、区外での周知PR等)
- ・また、紹介番組・記事、ロケーション撮影等のテレビ・映画や雑誌などマスメディアへの露出機会の積極的開拓により、広域的な情報発信に努める。

8. 協働による整備推進

- ・歴史・文化資源は公共物以外に民間所有物や地域の民俗芸能など多岐にわたり、それらが連携して都市観光拠点として魅力を発揮するため、あるいは、温かいホスピタリティに基づき来訪者を心地良くもてなすために、公共、観光資源の所有者・管理者、商業者・商店会、事業者、地域の住民・町会など地域で活動する多様な主体が協働して取り組む。
- ・そのため、関係主体が、地区の将来像、まちづくりのあり方等について認識の共有化を図る。
- ・地区整備を実現に向けた各主体の具体的な取り組み事項やまちづくりルールを検討する。

9. 整備プログラム

整備項目	整備内容（【 】は所管する担当）	前期 2015～2019	後期 2020～2024
哲学堂公園 の整備	・四聖堂等時空岡の古建築物修復【公園、施設担当】 ・その他古建築物、構造物等修復【公園、施設担当】		
	・管理棟、体験学習施設の設計・設置【公園、施設担当】 ・園路・広場等の再整備【公園担当】		
	・スポーツ施設改修【スポーツ担当】		
	・ボランティアガイド制度強化・人材育成【公園担当】 ・魅力的な体験学習の提供【公園、文化財担当】		
みずのとう 公園の整備	・公園拡張用地確保【公園、経理担当】 ・配水塔改修、公園再整備【公園、文化財担当】		
景観形成	・まちづくりルール導入、街並み・景観形成の誘導		
道路整備	・まち歩き回遊経路の歩行者空間改善（カラー舗装等）		
回遊の誘導	・まち歩き回遊ルート設定【都市観光担当】 ・案内誘導サイン設計・設置【広報、都市観光担当】		
	・ガイドマップ作成・配布【都市観光担当】 ・ボランティアガイド制度創設・育成【都市観光担当】		
魅力情報の 発信等	・都市観光集客戦略構築【都市観光担当】 ・PR誌・PRパンフレット作成・配布【都市観光担当】 ・PRイベント開催、メディア開拓【都市観光、広報担当】		

ハード整備

 ソフト施策